

令和6年度 総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年2月3日(月) 14時00分～15時37分

2 場 所 福井市役所3階 庁議室

3 出席者 市長 西行 茂
教育長 吉川 雄二
教育長職務代理者 多田 和博
教育委員 宮郷 美千代
教育委員 粟原 知子
教育委員 石原 靖紀

<事務局職員>

総務部長 清水 拓
教育部長 山本 誠一
少年対策参事官 前田 俊行
市長公室長 中村 直幸
観光文化スポーツ局副理事 山口 秀明
教育次長 小倉 敏之
総合政策課長 野嶋 誠
文化振興課長 森 賢子
教育総務課長 西岡 清隆
学校教育課長 酒井 睦夫
保健給食課長 横山 尚永
生涯学習課長 高比良 博則
教育総務課副課長 岩上 高広

4 会議次第 中学生の地域クラブ活動参加に向けた対応について

5 会議の経過 (1) 開会
(2) 市長あいさつ
(3) 教育長あいさつ
(4) 内容は以下のとおり

座長(西行市長)

それでは、会議を始めます。
本日は、「中学生の地域クラブ活動参加に向けた対応」について、ご協議
いただきます。それでは、事務局から説明願います。

事務局
(保健給食課長)

「中学生の地域クラブ活動参加に向けた対応」についてご説明いたしま
す。
少子化の影響によりまして、生徒数が減少し、学校単位の部活動が成り立た
なくなってきております。そのため、学校単位の部活動から地域でスポーツ、

文化芸術活動に親しむ機会の確保、また、教員の負担軽減を図るため、部活動廃止に伴う中学生の地域クラブ活動参加に向け教育委員会でスタートしています。

— 以下、資料に基づき「これまでの経緯と協議会等での主な意見」、「先進地における地域移行の状況」、「本市の課題と今後の方向性」、「中学生の地域クラブ活動参加に向けた課題対応スケジュール」等について説明 —

座長

ただ今の説明について、皆様のご意見をお伺いします。

教育長

スケジュールを2ページにわたり説明いただき、大変盛りだくさんの内容だと思いますが、来年、どのような人数や体制で進めていこうとしているのか、何人の職員でどういう分担をして、進めようとしているのか見通しがあれば教えてください。

事務局

(保健給食課長)

人事当局には職員の増員を要求しており、現在のワーキンググループの職員7人を確保したいと考えています。

教育長

ということは、7人で資料に掲載されているすべてのスケジュールを実施しようということですね。

福井市地域クラブ活動推進協議会の中で、例えば、スポーツ団体の方からスポーツ課に問い合わせをしても、それは教育委員会に聞かないとわからないなど、情報のやり取りがスムーズにいかないのご批判をいただいています。

そのため、組織の一本化や、情報が一元化できるようにすべきというご意見をいただいています。このような中、非常に盛りだくさんの内容であり、どのようにこなして行くのか、また休日の部活動廃止まで残り一年という期間の中で、スピード感を持って進めていかないとうまくやっていけないのではないかと危惧しています。

この中で盛りだくさんの内容を決めなければならず、子どもたちがスムーズに動けるようにしていかなければなりません。

計画通りにしっかり進めていくのが、令和7年度の課題だと考えています。

多田委員

部活動をどうするかという話からスタートしているので保健給食課が全部担っているわけですが、本来は、放課後とか土日の子どもたちが、どう充実した過ごし方をするかということを支援する体制が必要だと思います。

例えば、長野市のような組織体制やクラブの月謝等に利用可能な電子クーポンを発行することが良いのかはわかりませんが、長野市が発行する3万円分の電子クーポンは、部活動でも学習塾でも利用可能ということです。

部活動をどうするかということは、地域移行にソフトランディングをするためには重要ですが、まずは市として、市民である子どもたちに充実した放課後や土日を提供する体制が必要です。今は、そこへ持っていくための過渡期だと思います。

上から攻めることと、移行するためにしなければならないことを切り分けないと、全部まとめてするのは困難だと思います。

いつまでたっても、学校の部活動を止めて地域に移行するという発想でしかない。そうではなく、部活動ではなくても何でもいいですが、子どもたちの中にはスケートボードやeスポーツをする子どもたちが出てくるかもしれない。文化活動ではないかもしれないし、スポーツではないかもしれないわけです。

文化部門とスポーツ部門がやっている活動に、コーディネートする部署があっていいのではないかと思います。

先ほど市長がごあいさつで言われた「こども未来部」は、名前的にはちょうど相応しいような気がします。

切れ目のないサポートをするような部署がコーディネートして、その下にスポーツ関係、文化関係、学校関係や公民館関係があるというふうにしないと、一部署で全部取り扱うのは大変で、体制的には違っているのではないかと思います。

座長

長野市が、部活動の地域移行についての先進地であるかどうかはわかりませんが、そのようなやり方も一つの手法です。

まずは、部活動を地域に移行するという手法を考えるのが先決だと考えています。

「こども未来部」は、どうやって子どもたちを地域で育てていくかということを担当する部署ですが、それと部活動の話を一緒にするのは、かえって話をややこしくするような気がします。

多田委員

部活動の移行を「こども未来部」で実施することは考えていません。

将来的に、情報発信や活動、学習塾など部活動にはないことも含めて子どもたちがやれることであれば、そういう情報提供は必要かもしれません。

座長

将来的には必要かもしれません。

部活動とそういうものを一緒にすると話がややこしくなります。部活動の移行と、子どもに対する政策とは違うと考えています。

教育長

部活動がなくなるという言い方をするから、その部活動はどこへ持っていくのかというイメージに捉われてしまいます。

もともとは、教員の働き方改革における多忙化解消ということも一つの柱としてはありますが、学校や団体に捉われない継続した活動を子どもたちができる土台づくりと言いますか、中学生でも小学生でも学校から帰って子どもたちが何かしたい場合の活動場所をある程度確保できるようにしていくことが、地域移行の大きな考え方です。

そこでは、子どもたちが必ず何かをしなければならないわけではなく、家に帰ってゆっくりしたい子はゆっくりして良いし、夕方からクラブ活動へ行ってみたいなら週何回か月何回かしても構わないという発想です。決して部活動の

受け皿を誰かがやってくださいという考え方ではありません。大きく、今後の放課後の過ごし方という視点でどのようにしていくかということになると、組織として「こども未来部」がやるべきなのか。部活動という括りがあったから、教育委員会が中心となってこれまでやってきたけれども、議会でもこれからは学校からは離れるのだろうと言われているので、どの組織で担うのが良いのかということは十分議論しなければならないと思います。

座長

例えば、部活動で野球をやっている子が、野球を続けたいと思っているのに受け皿がないと困るという話ですよ。

部活動とはまったく切り離すことはできるはずもなく、将来的にはそういうこともあるが、今は過渡期ですので、部活動という頭でいけばよいと思います。

部活動から切り替えてなかなかそこまではできません。

まずは、部活動をやっている子どもたちを右往左往させてはいけないので、しっかりとした受け皿を作るべきだと思っています。

モデル事業の吹奏楽や合唱はまさにそういうことです。

好きなことをやりなさいと言って散らばってしまうと、本当にやりたい子どもはどこでやればいいのかわからなくなってしまうと思います。

ただ、長い目で見ると、一人ひとりの子どもたちの活動の場をどうするのかを検討すべきだとは思いますが、令和7年度、8年度は、先ず今やっていることをどうしたらいいのだろうということを解決する必要があり、どこが所管するというのは別の話だと思っています。

部活動に対して我々はどういう姿勢であるのか、それを考えるのはどこかというものだと思っています。

将来的に、もし必要であれば、プロジェクトのような組織を受け皿として考えていきますが、今の組織のどこに当てはめるかというよりも、もっと先にやるべきことがあるのではないのかと思います。

教育長

現在すでに中学1年生になっている子は、その子が3年生になるまで部活動が保証されています。問題は、今から中学校に入ってくる、小学6年生、5年生、4年生の子が、中学校に入ってみたら休日は部活動がなく、ゆくゆくは平日もなくなるということです。小学生の段階から受け入れられて中学生になっても続けられる団体を増やしていきたいというのが、現在の動きの原因になっています。

ですから、現在部活動をやっている子を切り捨てるということではないわけです。移行期間なので、これから中学校に入ってくる子をどうしていくかということです。

座長

平日の部活動はずっと続くのですか。

教育長

今のところは続いていくが、小学校の時から地域のクラブに入っている子は

その活動を続けたいとなると、当然中学校の部活動には入らないわけです。そうなっていくと中学校の部活動はどんどん縮小していくので、校長もメンバーが集まらなければ募集停止の判断をせざるを得ないことになります。

そうした中で、どう進めていくかという考え方が今必要で、ある日突然「子ども未来部」にやってくださいというわけではないです。

ですからその辺は、常に連絡を取り合いながら、やることはやりながらフェードイン、フェードアウトしていく、自分としてはそのようなイメージを持っています。

座長

部署を作ってどうするかということはテクニカルな話です。

そのような考え方も必要であり、平日の部活動も地域に移行する時には、そういった受け入れの形は必要だと思います。

ただ、移行期間にそれが重要なのだろうかという疑問に思います。ある日突然、ある部局が主体になるというのは役所の都合でやっているだけで、子どもたちのことを考えると疑問に思います。

今、移行期間であるということ認識しながら、子どもにとって部活動がどうあるべきかということ、しっかりと考えて受け皿を作るものだと思います。

教育長

長野市は明確です。スポーツについてはスポーツ課に問い合わせたら全てわかる。文化活動については文化部門に聞いたら全てわかる。教育委員会はそれを学校に広めるだけというスタイルなのです。ですから、役割分担も明確だし、予算の取り方も明確だというふうに、ものすごく感じました。

本市の場合はそうではないというのが現在の状態です。スポーツ課に聞いても、それは教育委員会に連絡しないとわかりませんということで、それではあまりにスピード感がないと、これまで見てきて感じているところです。

多田委員

孫が何人かいますが、一人はサッカー、もう一人はモルックをしたいけれどもどこでやっているのかわからないのです。どこでやっているかがわかるようになれば、休日などの過ごし方が充実するわけです。

現在は移行期間ですから部活が中心なのでしょうが、これから中学校に入学してくる子はいろんなことをやりたくてもそれがどこでやっているのかわからないのです。

座長

例えば、本市には子ども家庭センターというのがあります。何をやる所かと言うと、子どもたちの悩みやお母さんの悩みを全部そこで聞きましょうという所属です。そのようなものを作ればいい話なので、そんなに難しい話ではないと思います。窓口を作って、そこに連絡してくださいという広報をすれば機能していくわけで、そこから担当部局につなぐということはあります。

例えば、「家庭での過ごし方相談」という窓口を令和7年度か8年度かに作ることはそう難しい話ではないと思っています。

教育長

そうすると、市民から相談があったときに、例えばその窓口にもルックをしたいと相談があったときに、やはり担当部局と連携する必要が出てくると思います。

座長

それはそうです。ですから、そういうチャンネルを作る必要がある。それを市長部局に作ろうか教育委員会に作ろうか市民は無関係で、我々はそういう窓口を開いていることを周知をすればよいわけです。

そのような窓口を作るという意見だとすると、来年に向けて作るようにすれば良いのかと思います。

栗原委員

小学6年生の当事者になる息子がいるのですが、先ほど市長から「こどもまんなか社会」を福井市も当然目指していくというお話がありました。この部活動の移行に関しては一番の当事者になるのは子どもたちであって、私のように子育てしている保護者は次になりますが、子どもがモルックをしたいと言った時に、子ども自身が情報にアクセスしていくために、窓口や組織がしっかりしていてほしいと思います。もう中学生なので、部活動がなくなると放課後がすごく長くなり、自分の裁量で放課後の時間の持ち方というところは必ず保証していかなければいけないと思います。

こども家庭庁も、こども基本法でも、子どもの意見を聞いて、子ども一人ひとりの意見が尊重される社会づくりを目指しているのです、そこは必ず担保しなければならぬのです。

窓口をどうするのかという話では、教員はどこへ問い合わせたら良いのか、保護者はどこへ問い合わせたら良いのか、地域クラブのクラブ長はどこに問い合わせたら良いのかということですが、子ども自身がどこへ問い合わせたら良いのかというのが一番大事だと思います。そこはどうしていくことになるのでしょうか。

座長

テクニカルな話なので、そういう問題があればそれを取り入れるように工夫して作れば良いと思います。今こうするああするという議論ではなく、そのような問題を集めて、我々は話を聞き、どういう形が望ましいかをこれから考えれば良いと思っています。

栗原委員

既に今年の4月に入学する小学6年生の子どもに関しては、入学する中学校によって部活動の格差が生じています。例えば、野球部がない中学校だったり、部活動が2つしかない中学校だったといった格差です。できるだけ早い段階で、子どもが地域で活動できるクラブの情報を収集して、その情報を一つに集約する必要があるのではないかと思います。

座長

そのようなことに応じることができるよう、ご意見をいろいろいただきながら、何が一番良いのかを揉む必要があると思います。

| | |
|-----------------|--|
| 栗原委員 | <p>私の中学生の頃は、平日の放課後は部活動、土日も部活動で、子どもの放課後の居場所はほぼ部活動でした。でも、今は、そうではない居場所が必要になっているので、モルックやeスポーツなど、私たちが考えられなかったような子どもが求める活動をやっている団体とか、そこを含めて情報を集約して、どこかでコーディネートしていく必要があると思います。</p> |
| 教育長 | <p>窓口をどんな形にするのかが大事であって、例えば、長野市の場合だとスポーツはスポーツ、文化活動は文化活動、公民館は公民館とセクションがはっきりしている。もう一つの考え方としては、専門部署を作ってそこに問い合わせればすべて解決するというのも一つの考え方です。どちらが合理的かということです。</p> |
| 栗原委員 | <p>その窓口は、子ども専用のところがないとダメかなと思います。</p> |
| 教育長 | <p>そうすると、長野市がやっている「クラブマッチングアプリ」のようなものがあれば、子ども自身でどこで何をやっているかということがわかります。</p> |
| 栗原委員 | <p>子どもが友達と週末にここへ行こうなどと話をするのには、学校で扱っているタブレットにそのアプリを入れるというのが良いと思います。各家庭に帰ってしまうと子ども同士で連絡を取るのはとても難しいので、タブレットに入れてアプリ管理できる、自分でコーディネートできるようになると一番良いと思います。</p> |
| 座長 | <p>その話につきましてもテクニカルな話ですので、いろんな意見を聞いて、どういう形がベストかということを我々として考える必要があります。 今ここではっきりしたのは、子どもにしても大人にしても窓口が必要であろうということかと思っています。</p> |
| 栗原委員 | <p>送迎の問題もあります。 子どもが一つパスを持っていて、東部地区なら東部地区で主要拠点を回るバスで子どもが行ってくれば心配がないと思います。すまいるバスもありますので、それに図書館や中学校などを回る「子どもルート」があってもよいと思います。それくらい本腰を入れてくれば、あとは子どもの力を信じて自身でのコーディネートを担当しても良いと思います。</p> |
| 多田委員 | <p>特設ホームページを今年の7月に開設するとスケジュールにありますが、特設ホームページにはどういう情報があるのですか。</p> |
| 事務局 (保健給食課長) | <p>地域で活動するクラブの情報を掲載する予定です。</p> |

教育長

お話を聞いていると、運動とか文化活動だけではなく、図書館での読み聞かせとか、様々なイベントを周知した方が子どもにとっては良いということですね。

現在は、ホームページに民間は掲載されていないです。どこまで網羅できるかということもありますが、民間団体のも募集は始まっています。

それこそ、公民館であれ図書館であれ、市の各課が子どもを集めて行う情報を全部そこに集めれば、広報ふくいを見るまでもなく自分で探せます。

栗原委員

子ども向けの媒体できちんと情報化してほしいと思います。

ドリーム通信は、大人も子どももわかりやすく、よくできていると思います。

でも、これが子どもの手に渡っているかというとおそらく印刷して渡してはいると思います。大事な情報は子どもの目に届くようにしっかり広報の仕方も工夫してほしいと思います。

教育長

窓口を明確にしても、そこからたらい回しになるのが一番いけないことですので、専門的なこともそこに聞けばある程度わかる形を整えなければならないと思います。子どもが問い合わせるにしても情報の一元化が必要になり、全庁的な話になりますので、市長部局を交えながら話をさせていただこうと思います。

座長

そこからつなぐというのが大事だと思います。

オールマイティーということはあり得ないと思いますので、そのような機能があるということが大事だと思います。

様々な意見が出てきたうえで、それを整理して窓口なりアプリなりということになるのかと思います。

そして、あまり悠長にはしてられないということも伺いました。

教育長

他に協議会で課題になっているのは、何らかの支援ができるかどうかということです。

ところが、部活動は義務教育から外れていくので、義務教育での支援は難しいとお答えしています。

多田委員

今までが学校の先生の伝統と言いますか、子どもを思う先生の心意気だけで部活動をやってきて、それに頼ってきたことが間違いです。これは持続可能ではないのですが、今まであったのだからこれからどうしてくれるのかということとは、移行期間には必ずあることです。

移行期間是对応するとして、それ以降は「なし」ということを意識しておかないといけないし、親御さんも含めて、ないものとはっきりさせたほうが良いと思います。

栗原委員

子どもの放課後は、すべて部活動とかで埋め尽くさなくても良いと思います。今は、子どもも親もすごく忙しく、日本の子どもたちはもう少し休む時間を取りなさいと言われてるので、ゆっくり休む時間を取れば良いと思いますし、お金のかからない遊び場で遊べば良いと思います。そのための受け皿としての居場所づくりは、絶対に急務な課題だと思います。

座長

居場所づくりというのは非常に重要なものだと思います。
その居場所について、学習だったり食事だったりいろんなパターンがあるだけで、子どもがいつでも居ることができる場所は絶対に必要だと思っています。
それは民間の方に一生懸命取り組んでいただき、それを支援するのが一番合理的だろうと思っています。

教育長

小学生は今、8割の子が習い事をしているという状況ですが、中学校になると部活動があって、みんな放課後は必ず何かの部活動をするというような状況に慣れており、これからそうではなくなったら何をさせようかと考えたときに、近くで何かすることがあれば良いということになります。それこそボランティアでも良いし、自治会の祭りの手伝いでも良いし、お金のかからないことは実はたくさんあるわけです。
我々としては、部活動の移行ということがあるので、そこにスポーツ系、文化系をしっかりと整えなければならないという課題があり、そこにはニーズもあるので必要だと思います。保護者の方の不安は、金銭の面もですが、移動の面が一番不安だということです。子どもが何かの活動に毎日取り組まなければならないものだというイメージがあり、今はそうではないということが周知されていないのだと思います。
ただし、移行期間については、何らかの支援をしていかなければならないでしょう。

石原委員

部活動だと学校が子どものことを把握していますが、外に出たら、この子はどこに行っているということを学校とは関係がないから把握しないということになるのでしょうか。
なぜお聞きするかと言いますと、全体を見ないとダメだと思うのですが、不登校の子には部活動だけに行ける子がいるわけです。そういう子はどうなるのだろうかと思います。
学校の部活動だと学校の先生が把握していて学校とつながりができるわけです。例えば部活動でキャプテンとかになって活躍したりすると内申書とかに反映されることになるわけですが、地域に移行したらどうなるのだろうかと思います。

教育長

学校としては、放課後のことにまったくタッチしないというわけにはいかな

いと思います。

ですが、そこで何かが起こったときに学校が首を突っ込むことは難しいと思います。

事務局
(学校教育課長)

何かトラブルがあったときに、学校が全く入らないというわけにはいきません。

なぜかという、ひょっとすると同じクラスなのかも知れないし、クラスの喧嘩をした子がクラブに入ってきたのかも知れないし、そこは様子を見て対応しないといけないからです。

地域のクラブで問題があったときに、学校も入りますけれども、活動しているクラブが中心となって解決に向かわなければならないこともあり、そこは連携が必要だと思います。

そういうときに、例えばこども家庭センターに最初に相談をするという仕組みをこれから作っていかねばならないと思います。

石原委員

そこで起こったトラブルは、子どもにとっては絶対先生に知られたくないトラブルだったりして、学校がなぜ知っているのということになるので、難しい話です。

教育長

トラブルは、家庭の問題や、クラブ活動の問題というところで処理してもらうのがいいのですが、学校としても連携しなければならないと思います。そこに、我々が今やっている不登校対策がどこまで関与できるかということになります。

校内サポートルームや、チャレンジ教室に行くなどのことは別の段階で、直接的なクラブ活動での解決にはならないですが、連携していくことが必要だと思います。

宮郷委員

ドリーム通信は、とても分かりやすいし、思いが伝わるとは思います。やはり紙で連絡してほしいというアンケート結果もありました。メールなどの発信と併せて紙での発信もしていただけると、お子さんの目にも入るし、紙を見ながら親子で話ができると思いますので、是非お願いします。

土日の部活動がなくなった場合、保護者としてどういうイメージを持っているか、とにかく意識改革が大事だということを長野市の方もおっしゃっていました。

競技志向で部活動を行っている方にとっては、土日の部活動がなくなった場合、競技志向の活動の場として新設クラブが本市でもあるのでしょうか。そしてその新設クラブへの支援はどうするのでしょうか。

北信越中学校総合競技大会や全国中学校体育大会を目指している生徒たちは、土日の部活動がなくなることに對して、どう支援していくのかという疑問があります。

| | |
|-----------------|--|
| 事務局 (保健給食課長) | モデル事業でやっているクラブ活動はありますが、それが競技志向かどうかということはホームページには掲載しています。 |
| 宮郷委員 | <p>全中に出場している部活動が福井市にもあると思うが、その部活動を今後どう考えていくのかと思います。</p> <p>土日の部活動はありません。でも練習がしたい。だから新設クラブを作って活動させてほしいということになります。</p> |
| 教育長 | <p>基本的に、そのチームが中学校体育連盟に所属すれば全中まではいけます。</p> <p>中体連は、あくまで教員が主体となってやっているものです。いずれ部活動がなくなると、それを運営する教員は当然なくなります。</p> <p>今、全中もどんどん競技を減らしていっていますし、福井県中体連にしても福井市中体連にしても今後そのあり方については検討しているところです。</p> <p>自分は全国に行きたい、競技志向で強くなりたい、勝っていきたいという子については所属クラブの中で、所属連盟や所属協会が主催している大会があるので、その団体が上位の全国へ行く大会を持っていれば全国に行くということになる。</p> <p>中体連の動きは聞いていますか。</p> |
| 事務局 (保健給食課) | 全中は今年度も競技が減ってきていますが、北信越については、地区が一巡するまでは続くと思っています。 |
| 栗原委員 | <p>子どもだけの自主グループで野球をやりたいとかといったことを考える子が出てくると思います。</p> <p>私の子は週3回、自主的に友達とグループを作って、放課後に運動場で活動しているのですが、中学校でも続けられるのかという話をしています。例えば空いている水曜日の運動場は、子どもだけの自主グループで借りるといったことはできるのですか。</p> |
| 教育長 | 責任を持てる人が一人いないと、承認しないことになります。 |
| 石原委員 | 受け皿には、いろんなスポーツクラブがありますが、すごく秀でた子は高校のクラブなども受け皿になるのでしょうか。 |
| 事務局 (学校教育課長) | <p>高校は、特色を出すということで、部活動をなくすことはしないと思います。</p> <p>今、県立も私立も含め、高校の部活動へ行って良いかという話をしているところです。</p> <p>啓新高校がプラスバンドを受け入れてもらっており、ある高校ではサッカーを受け入れているといった例もありますので、高校を開拓していく必要はあると考えています。</p> |

多田委員

平日と休日を一貫した指導を望む声があるという意見があります。
いつ平日が廃止になるかは、福井市の場合未定ですが、いつまでがリミットでそこまでの間での未定なのでしょうか。

教育長

国では、令和7年度までが移行の推進期間ということでしたけど、8年度以降は実施期間ということで、平日の移行を強力に推し進めようとしています。

多分、今後5年、6年の間には、平日の移行を図らないといけないと思いますが、先ず休日をやってみて、子どもたちがどういう動きになるのかということを追跡調査しないと次のステップは踏めないのではないかと考えています。

令和8年度になり、新入生が誰も部活動に入ってこなかったということなら、早々に平日移行に進めばよいと思いますが、なかなかそういうわけにはいかないだろうと思っています。

ただ、中学校としては、ある程度人数が集まらないと部活動は成り立たないという現状がありますので、早めに閉じていくということがあることを考えると、どこかで平日もやめますとやらなければなりません。令和9年度から6年の間には、子どもたちの流れを考えて、それを言わないといけないと思っています。

栗原委員

私の周りの保護者の中には、競技志向が強い人ほど、来年度1年間は平日も含めて様子を見て部活動に入れるけれども、土日がなくなった時点で、平日の部活動をやめて、完全に地域のクラブに行こうかという方が結構多いです。

ですから、部活動に入る人は、来年度はいるけど、再来年度はほとんどいなくなるかもしれません。

教育長

スポーツについてもプラスバンドなどの文化活動もそうですが、やはり専門家に指導してもらうというのが一番です。

中学校の教員は必ずしも専門ではないので、プロで指導の仕方がわかっている方が指導するのは自ずと差が出てくると思います。

栗原委員

長野市のプロクラブが、中学生が楽しい範囲でできるプログラムを考えて、中学校の部活動の先生と一緒にやっているのを見学させてもらったので、福井もブローウィンズなどが、中学生が楽しくできるプログラムを市と一緒に作ってやっていくと一番楽しい活動になると思います。

座長

ブローウィンズも、子どもに興味を持ってもらって競技人口を増やす取り組みをしています。

今日は、部活動の移行の課題に係る多くの話を聞かせていただきましたが、これもその奥には少子化ということがあるのかもしれません。

| | |
|-----|---|
| 教育長 | <p>文部科学省は、次期の学習指導要領では、部活動は学校教育の一環として謳っていないので、これからは社会の中に子どもを返していくという形で子どもを育てていこうという方向性です。</p> <p>何十年もやってきた部活動がなくなっていくということについて、我々もそうですが今の保護者の方々にとってもこれまでの部活動のイメージからなかなか抜けられないと思います。しかし、大きく転換していくことを考えると、市の中でも子どもの居場所づくりというのは考えていかなければならないと思います。</p> <p>今日は、窓口をどうしようかと言うことを、全体的に考える必要があるのだろうということを確認しました。</p> |
| 座長 | <p>文科省は、地域移行には関与しないと言っているのでしょうか。</p> |
| 教育長 | <p>学校と連携するようにとだけ言っています。</p> <p>文科省が音頭をとっていると言いながら、実際に音頭を取っているのは外局のスポーツ庁と文化庁です。文科省は、次期の学習指導要領から外すという方向性に向いていて、実際に音頭を取っているのは、全国の大会へ出向いてもスポーツ庁と文化庁が旗を振っています。</p> |
| 座長 | <p>いろんな意見を伺って、これからも幅広い議論になりそうです。</p> <p>長期的な問題だと思います。</p> <p>その裏には、少子化のこともあり、学校の規模適正化のことも絡んでくるような気がします。</p> <p>必ずしも、部活動の地域移行にとどまらないと思いました。</p> <p>ただ、今日は皆様方と話をして、窓口を設置するというご意見をいただきました。意見を集約してどのように合理的に機能するかを検討する必要があると思います。</p> <p>学校活動から地域活動へというのは簡単なものではなく、居場所についても年少から中学生までまったく違うということがありますので、いろいろな課題があると思っています。</p> <p>一つひとつ答えを出していかなければならないと感じています。</p> <p>今日のご意見を受け止め、地域移行をポジティブに捉えながら、子どもさんたちのためにより良い形となるように考えていかなければならないと思っています。</p> <p>これからもいろいろご意見を伺いながらしっかりと進めていきたいと思っています。</p> |
| 教育長 | <p>これからも議論は続けていかなければならないと思っています。</p> <p>全庁的な関わりの中で進めさせていただきたいと思いますので、是非ともよろしく願います。</p> |

事務局
(教育総務課副課長)

これをもって「令和6年度 福井市総合教育会議」を閉会します。